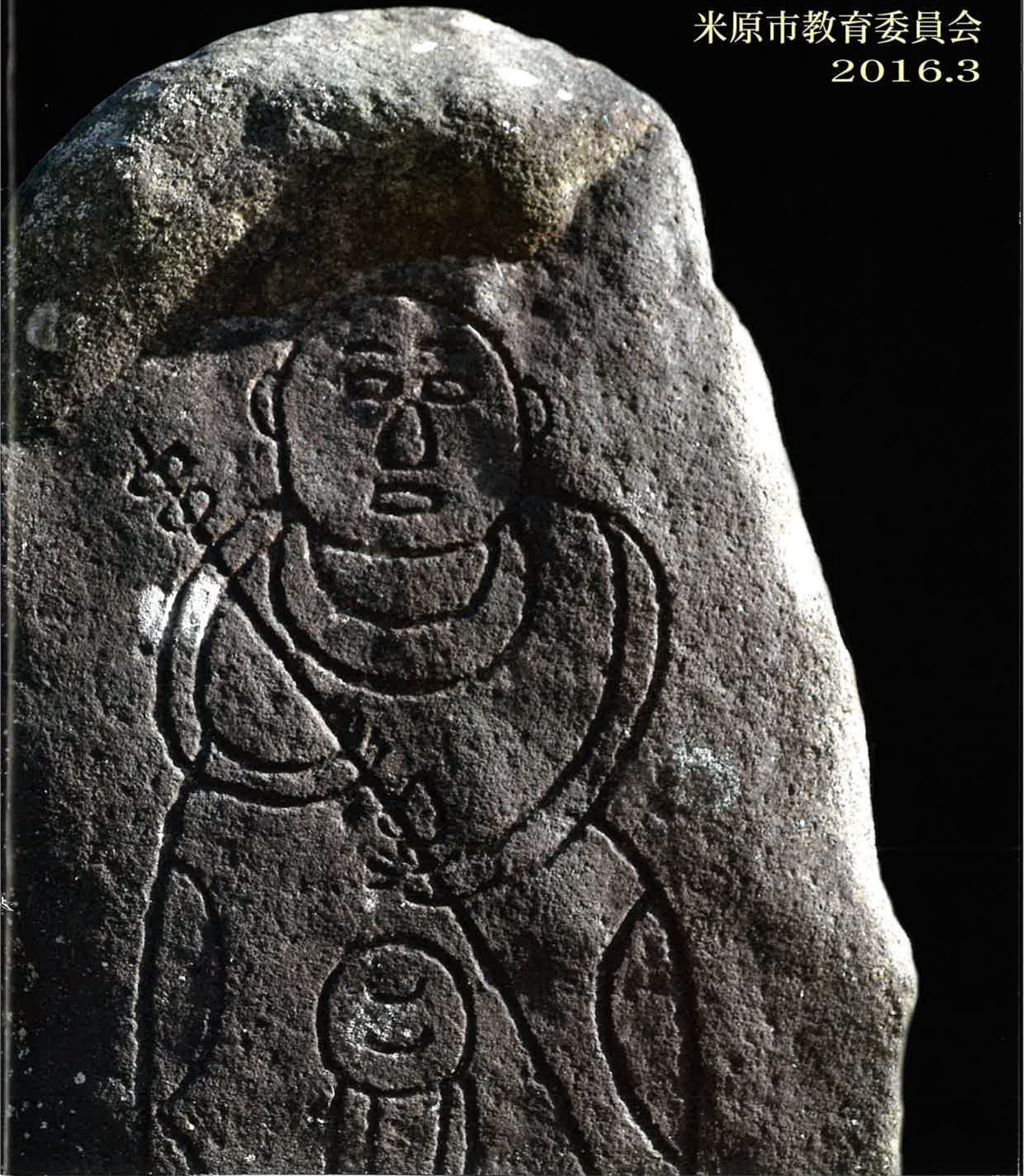
埋蔵文化財活用事業

石塔造立

― まいばら石造物100 ―

米原市教育委員会

2016.3



石塔造立

ーまいばら石造物100ー

出土した能仁寺跡の墓地（清滝）
滋賀県文化財保護協会提供

石垣の下の宝篋印塔台座（曲谷）

教え子が建立した 御薬袋（みない）順三郎碑（柏原）

目　次

Ⅰ米原の石造文化 ……2
1．願う
2．祈る
3．集う
4．造る

Ⅱ石造物の見方 ……3
宝篋印塔・五輪塔・層塔・多宝塔・宝塔
板碑・石幢・灯籠・無縫塔・石仏・笠塔婆
石祠・廟・石碑・磨崖仏・鳥居・手水石
狛犬・墓標

Ⅲ米原の石造物 ……5
1．宝篋印塔
2．五輪塔
コラム：天野川「七夕伝説」
3．京極氏の石造物
4．大原氏の石造物
5．層塔・多宝塔
6．後鳥羽上皇伝説
7．まいばらの人物墓碑
コラム：東山道一の難所 ― 鎌倉幕府滅亡 ―
8．板碑
9．石幢
10．石仏
コラム：石仏の里・吉槻
11．灯籠
12．社寺の石造物
13．伊吹山信仰の石造物
コラム：伊吹山の修行僧・播隆
14．記念碑・磨崖仏など
15．街道の石造物

Ⅳ石を刻む ……27
1．曲谷石切り場
2．石工の村・曲谷
3．曲谷石工の活躍

Ⅴ資　料 ……31
1．掲載石造物一覧
2．石造物をめぐる物語
3．石造物分布図

参考文献

Ⅰ 米原の石造文化

はじめに

日本人の暮らしや景観は、ここ50年余りのあいだに大きく変貌しました。かつての生活様式や故郷の風習、集落や田畑の風景はもう見ることができません。しかし、先人が共同で石に刻んだものは、宗教色が強いものが多いこともあり、そして石だからこそ、朽ちずに数百年経ってものこされてきました。近江にのこされた石の文化財の数はおびただしく、ほとんどの集落で「石のお地蔵さん」として親しまれています。これらは、それぞれの集落に生きた人々の暮らしや心を探る手がかりであり、郷土史の空白を埋める大切な資料です。今回、米原市内の100の石造物を、種類やテーマに分けて紹介します。もちろん、ほかにもたくさんありますが、この冊子をきっかけに、身近な石の文化財への関心を持っていただき、歴史資料として掘り起こし、活用していただければと思います。

さらに米原市には、数百年にわたって石の加工がおこなわれた、県内でも稀有な歴史を持つ曲谷集落があります。

1. 願　う

伊吹山や霊仙山に社寺が展開した米原市には、仏教の教義に伴う信仰や、仏への供養に建てられた石造物がたくさんあります。層塔は霊仙山麓の松尾寺と八坂神社に優品がのこっています。天台教義による宝塔は、比叡山のお膝元の近江では多いのですが、市内では残欠しかみかけません。中世でも古い段階の宝篋印塔が市域全体に点在します。石幢や板碑、播隆上人名号碑など貴重な資料もみられます。

2. 祈　る

室町時代以降、墓石として造立された五輪塔は、共同墓地や境内墓地、辻堂や路傍などいたるところに、多くは４つの部材がばらばらになった状態でみられます。その質量には、近江に生きた庶民の厚い信仰と経済力を感じます。平野神社の五輪塔は刻銘もあり典型例といえそうです。また、砂岩の転石にほほえましい地蔵像や五輪塔を線刻する墓石が伊吹山麓に集中しています。寺院には僧侶の卵塔が建立されています。京極家墓所は中世から近世にかけての大名墓として全国唯一のものです。

3. 集　う

街道筋や集落の真ん中に「常夜灯」が氏子や若者連中によって寄進されたのは江戸後期から明治にかけてのことです。講組織によって建てられた伊勢大神宮や金比羅灯籠もみられます。多くの人が集う祭の夜の献灯は、美しく神秘的だったことでしょう。街道が行き交った市内には道標も多く、元三大師道は北近江特有の道標であり、番場の汽車汽船道道標は近代化へ移行する時代を感じます。

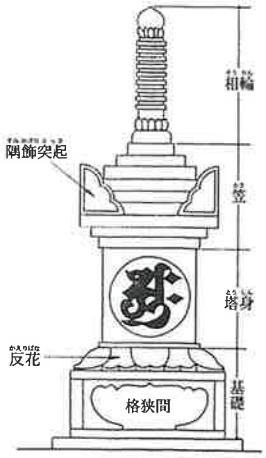
4. 造　る

社寺や有力者、庶民にいたるまで、その願いや祈り、弔いの心をくみ取り、石造物としてかたちに彫りだしてきたのが曲谷の石工集団です。さまざまな作品が、市内はもとより近隣地域に供給されていきました。おそらく、隣接する吉槻や板並にも造りかけで廃棄された五輪塔がみられることから、東草野地域全体で取り組まれたようです。ただし、曲谷だけは、江戸時代から明治にかけて、山中に入って石臼などの石の民具を作り続けました。田畑が少ない山村では、現金収入につながる産業が発達しました。霊仙山麓では石灰岩の石仏がみられます。京極家の宝篋印塔にも一部使われています。こわれやすく、複雑な彫刻に向かない石灰岩を加工する石工集団がいたのかもしれません。

Ⅱ石造物の見方

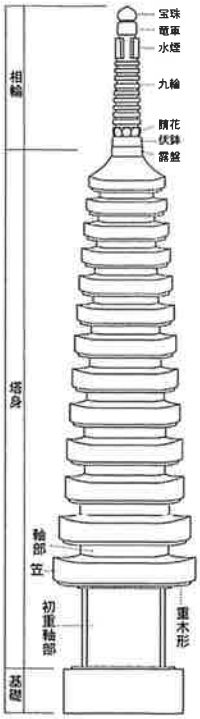
宝篋印塔

中国起源の塔で、宝篋印陀羅尼経を納めたことからこの名がありますが、多くは、金剛・胎蔵界の四仏を刻む密教の塔として、追善・墓塔、供養塔として造立されました。笠の四隅の馬耳状の隅飾が特徴で、近江では基礎の格狭間に三本の蓮をあしらいます。



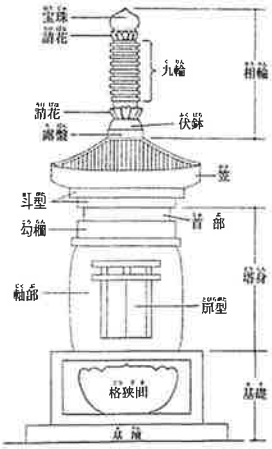
層塔

仏教伝来に伴い木造塔が伝わり、石造塔も伽藍の一部を構成する仏塔として、奈良時代に始まり、近江では鎌倉時代中期から盛んに造立されました。塔身に四方仏を刻み、三・五・七・九・十一・十三重があり、無限に広がる数字として仏教で尊重されます。



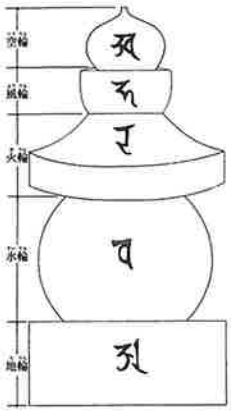
宝塔

相輪、笠、平面円形の塔身、方形の基礎からなる塔で、塔身は木造建築を模して、扉や桟唐戸や鳥居形を刻み、ふくよかな丸さから仏教的な美しさが漂います。法華経を信奉する天台宗の教義に基づき、比叡山のお膝元の近江で、鎌倉から室町時代に多く造立されました。



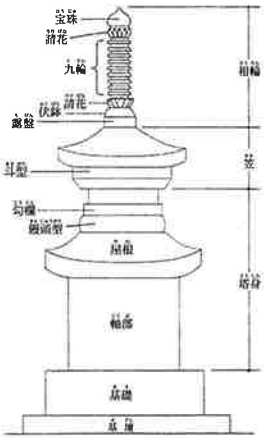
五輪塔

仏教で万物の構成要素とされる空、風、火、水、地の五大思想を、宝珠形、半円形、三角形、円形、方形で組み合わせた塔です。16世紀以降には一石五輪塔や石に刻んだ五輪塔板碑が盛行し、室町時代の墓石として、市内の至るところで見られます。



多宝塔

上から相輪、笠、塔身、基礎からなり、塔身に裳階を加えて下部を方形、上部を円形にした二層形式の塔です。木造塔は多いのですが、石造塔は全国的にも極めて少なく、県内では、菩提寺廃寺跡と長寿寺（ともに湖南市）の２基のみです。

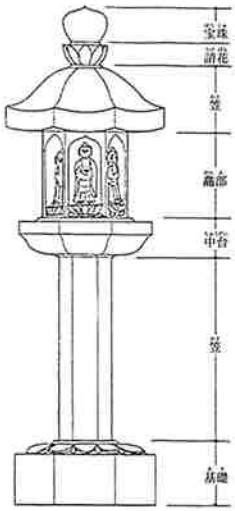


板碑

中世に供養塔あるいは逆修塔として造立された卒塔婆です。関東に無数にあり板状に割れる緑泥片岩製で、上部を三角に切り、その下に二条の切込みをつくり、中部に梵字（種子）や仏像を表し、下方に年月日、その他を刻んだものが典型とされます。石に五輪塔を彫ったものを五輪塔板碑とよびます。

石幢

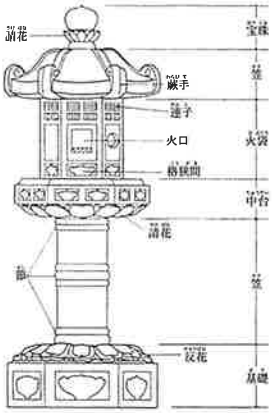
幢は「のぼり」の意味があり、寺院の須弥壇脇に天井から下がっている幢幡を組み合わせた形を石で表しました。柱状の幢身と笠・宝珠からなる単制と、基礎、竿、中台、塔身(龕部)、笠、請け花、宝珠で構成された重制石幢があります。室町時代には地蔵信仰から龕部に六地蔵が彫られました。



(重 制)

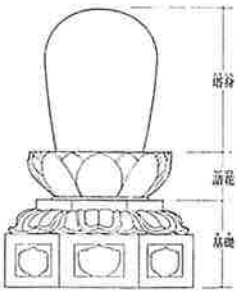
灯籠

神仏の前に明るい燈明を捧げる信仰から生まれたものです。中世には細部に装飾が施され、笠の六角形の先端には蕨手が付きます。江戸中期から後期には「常夜灯」「大神宮」と刻まれた壇状の灯籠が建てられました。



無縫塔

石塔婆の一種で、頂部の塔身が丸く、縫い目がないということでこの名があります。僧侶の墓に用いられ、近世には笠、中台、請花を省略した卵塔の造立が増えます。



石仏

石塊を彫って作られた仏像の総称です。極楽往生を願う阿弥陀如来、修験の霊場や山寺で造立された大日如来、六道を巡って浄土に導く地蔵菩薩などさまざまな像容があります。

笠塔婆

竿の上部に仏像や梵字を記しその上に笠をのせた塔です。

石祠　廟

木造のお堂や宮建築を模して建立されたもので、ご神体や御霊を納める例があります。廟は先祖の霊を祀りしのぶための施設で、位牌としての石塔が納められています。

石碑

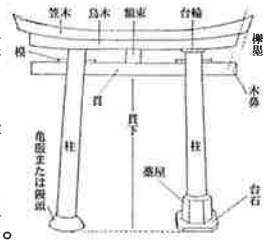
さまざまな石の表面に銘文を刻んだものの総称で、広い意味では記念碑、下乗碑、道標などの標識から、仏教的な供養碑までを含みます。

磨崖仏

崖など岩肌が露出しているところに仏像や仏像を表す梵字など仏教関係彫刻を施したものです。人里離れた岩山や川岸にみられ、山岳信仰との関連があります。

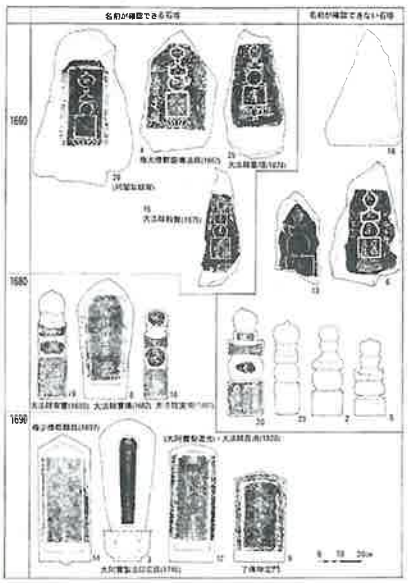
鳥居　狛犬　手水石

神域の出入口や参道に建てられる鳥居。大陸から伝来した神の守護獣（唐獅子、高麗犬）の狛犬。身を清めるための手水石。



墓標

杉本坊（上平寺）の江戸時代の歴代住職の墓石では、自然石に五輪塔を線刻するものから一石五輪塔へ、さらに、板碑状墓石や卵塔に替わっていきます。



杉本坊墓石の変貌

Ⅲ 米原の石造物

1. 宝篋印塔

恵比須神社長寿塔⬆（柏原）

郡志に市場寺廃寺との関連が記されます。五輪塔と宝篋印塔が並び、地輪と基礎が入れ替わっています。

小野墓地（柏原）⬆

成菩提院に関する古塔とされます。古い形式ですが、散在する残欠を昭和に建てたもので完形ではありません。

浄念寺（世継）⬆

基礎には直接三本の蓮の茎を刻んでいます。四方仏を配した塔身は、笠や基礎と比べてかなり大きく、別の塔のものと考えられます。息長王墓の伝承があります。

磯﨑神社後宮（磯）⬆

本殿奥の後宮の元禄４年建立の祠堂に安置されおり、相輪を欠き、塔身と基礎が上下逆になっています。

薬師堂前（上多良）⬆

塔身に四方仏を配し、相輪はありません。大正３年頃まで薬師堂の裏にあったものが祠堂に移されました。

観音堂（天満）⬆

元禄10年領主内藤氏から寄進された慈雲院観音堂の脇に、基礎と笠を積み上げた２基の残欠があり、左塔の笠はかなり摩耗しています。

2. 五輪塔

朝妻神社星川塔（朝妻筑摩／市指定）⬆

相輪の上半分と宝珠請花を欠き、塔身の四面に仏像を表す「種子（梵字）」が刻まれています。装飾性の乏しい点、基礎の輪郭の刻みが浅く幅が狭い点など古い様相がみられ、県内での初期宝篋印塔の展開や地域史を語る貴重な資料です。

妙覚寺（小田／市指定）⬆

文永二年（1265）、正安二年（1300）、永享七年（1435）の年号や永享塔には小田の鋳物師「八田部共義」の銘が刻まれています。しかし、塔の形式は室町時代後期から末期のもので、紀年銘との差異があるようです。

玉泉院の一石五輪塔（杉沢）

長尾寺跡天文7年銘の五輪塔（大久保）

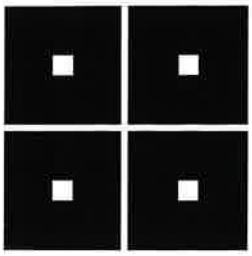
コラム：天野川七夕伝説

天野川河口には七夕伝説が伝えられています。朝妻神社の塔は「星川塔」とよばれ、蛭子神社縁起書には雄略天皇の第四皇子稚宮（星川皇子）の墓とされます。天野川を挟んで鎮座する世継の蛭子神社には七夕石があり仁賢天皇の第二皇女朝嬬皇女の墓とされています。男性がお参りすると恋愛が成就するとのことです。

朝妻神社層塔（朝妻筑摩／市指定）

現在は三層となっていますが、もとは五層か七層だったと思われます。宝篋印塔（星川塔）の造立に近い時期の鎌倉時代後期でも古い段階のものとされます。

3. 京極氏の石造物(1)



京極家歴代の墓は、七代高詮(たかのり)「能仁寺」、八代高光「勝願寺」、十代高数「満願寺」のように柏原周辺にあり、五代高氏の「勝楽寺」は犬上郡にありました。

中世の京極家歴代墓所(清滝／国指定)

京極高次廟

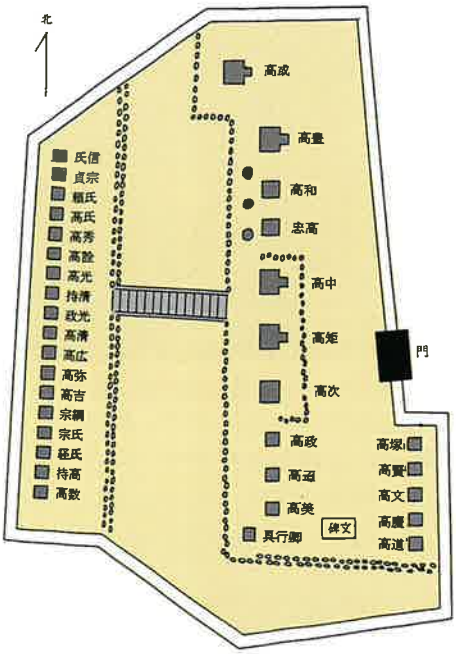
近世の京極家歴代墓所(清滝／国指定)

右から氏信（初代）・貞宗・頼氏・高氏・高秀・高詮・高光・持清

右から政光・高清・高広・高弥・高吉・宗綱・宗氏・経氏

右から持高・高数

京極忠高廟



京極家墓所概要図

京極家墓所の造営

丸亀藩２代藩主京極高豊は、初代高和の墓所を造営するにあたって、そのころ、すでに廃寺に近い状態だった初代氏信の菩提寺・清滝寺（せいりゅうじ）を京極家の墓所としました。墓所の整備は、近隣に散在していた初代氏信より18代高慶（高吉）まで（12代、14代欠）と、頼氏、経氏の18基の宝篋印塔を集めて補修し、墓所の上段としました（昭和７年国史跡）。下段には、京極家の中興である19代高次の石製廟を中心に歴代丸亀藩主の墓所と多度津藩歴代の墓所、さらに北畠具行（きたばたけともゆき）の宝篋印塔など16基と、丸亀藩６代藩主高朗の讃骸塚、忠高・高和に殉死した家臣の五輪塔６基が配置されています（平成14年国史跡）。近世大名墓は、国許（くにもと）に造営される場合と、国許と江戸の亡くなった場所で造営されることがほとんどで、丸亀・多度津藩京極家のように先祖の埋葬地である米原に葬るというのは極めてまれな事例です。そのうえ、鎌倉以来の先祖の墓も一堂に集めて一族の墓所とし、先祖の地を聖地化したというのは京極家墓所しかありません。

京極氏の石造物(2)

勝専寺(柏原)⬆
乱積みされた宝篋印塔や五輪塔の残欠があり、往時の隆盛がうかがえます。一説に稚渟毛両岐王(わかぬけふたまたおう)や京極氏に追討された柏原弥三郎の墳墓とされます。

薬師堂(志賀谷)⬆
相輪の宝珠を欠き、塔身に別の基礎が据えられています。京極氏の流れをくみ黒田六郷を支配した黒田氏との関連がいわれています。

北畠具行墓(清滝/国指定)⬆
北畠具行は後醍醐天皇の重臣で、元弘の乱で敗れ柏原で斬首されました。貞和三年(1347)の銘文があり、死後16年後に介錯を務めた田児六郎左衛門尉により建てられたとされます。京極家墓所にも具行の宝篋印塔があります。

京極家墓所北畠具行供養塔(清滝)

伊吹神社京極氏一族の墓(上平寺)⬆
上平寺は京極高清の菩提寺で、絵図にも御廟所の記載があります。高清の墓は江戸時代に清滝へ移されましたが、6基の五輪塔が残されています。

西福寺の宝篋印塔(長岡)⬆
3基の宝篋印塔があります。近隣の東福寺跡の京極満信塔と類似します。郡誌では黒田氏一族の供養塔とします。

済之君墓(長岡)⬆
京極長岡氏の居館跡に隣接し、ゆかりの女性の墓とされます。

京極満信墓(長岡/市指定)⬆
京極氏初代氏信の三男で、長岡庄を領した満信の墓とされます。この地は菩提寺東福寺跡です。

4. 大原氏の石造物

大原氏館跡の墓石群（本市場）⬆
佐々木氏から分かれた大原重綱は本市場に居館を構えました。L字状の土塁の隅に一石五輪塔などが並びます。

光明院（加勢野）

比夜叉御前墓（池下）⬆
三島池の水神を祀り、機織り機とともに人柱となった乳母（めのと）の宝塔です。

善楽寺高屋貞満墓（春照）⬆
貞満は京極高氏の弟で、子の高則は大原氏の分流春照（すいじょう）氏を名乗りました。

光明院大原時綱墓（加勢野／市指定）⬇
光明院は文永元年(1264)、大原時綱の発願で現在地に移転、開山されました。完形の宝篋印塔で、寺伝では時綱の墓とされます。

5. 層塔・多宝塔

永明寺多宝塔 ➡
（柏原）
永明寺山頂にあります。軸部に願文と銘があり、円形の塔身の三方に梵字を刻んでいます。宝暦７年(1757)、住僧千峯の時代に建立されました。

泉明院層塔（柏原）⬆
本堂南の山の尾根上にあります。素文の軸部の上に層塔の塔身と笠がのり、４層目は宝篋印塔の笠です。

西福寺層塔（長岡）⬆
元文２年(1737)、法華経を小石に一字ずつ書いて埋めた一字一石経の上に建立され、平成７年に修復されました。

松尾寺九重塔（上丹生／重文）⬆
基礎の背面に「文永七(1270)庚午年八月日」の銘があり、３面には格狭間の両側に宝瓶に挿した蓮を刻んだ古い図柄がみられる優品です。

八坂神社九重塔（三吉／市指定）⬆
基礎の正面のみ格狭間内に宝瓶三茎蓮を刻みます。軸部に四方仏を半肉彫りし、元亨三年(1323)の銘があります。

6. 後鳥羽上皇伝説

鎌倉幕府初期、公家政権の実権を握った後鳥羽上皇は、建久10年(1199)と承久２年(1220)の二度、ひそかに名超寺(長浜市)を訪ね討幕の祈祷を命じました。このとき、日撫神社と山津照神社に参拝して相撲を見学されたと伝えられています。上皇の北近江来訪は、一級資料では確認できませんが、後鳥羽上皇伝説が、この地に濃く伝わる背景には、箕浦荘が上皇の肖像を安置する後鳥羽上皇御影堂(大阪府島本町)の荘園だったことがあげられます。上皇は、承久３年挙兵しますが敗れ、隠岐島に流され崩御しました。

蓮成寺雅成親王墓(宇賀野)➡
上皇の皇子雅成親王の墓とされます。宝篋印塔、層塔、五輪塔の残欠が五層に積まれています。周囲には宝塔などの石造物が集められ隆盛がしのばれます。

後鳥羽上皇ゆかりの地

願乗寺一ノ宮皇子御墓(中多良)⬆
後鳥羽上皇の皇子一ノ宮皇子の墓と伝えられる五輪塔が境内の片隅に安置されています。

福田寺後鳥羽上皇供養塔(長沢)

人塚山後鳥羽上皇腰掛石(高溝)

観音寺後鳥羽上皇腰掛石(朝日)

日撫神社奉納相撲(顔戸)
奉納相撲は、後鳥羽上皇の参拝に際し、村人が相撲を披露したことが始まりと伝えられています。

7. まいばらの人物墓碑

西行水泡子塚(醒井) ➡左
清水が湧き出す巨岩の上に西行が建てた供養塔があり、基壇に「一煎一服一期終即今端的雲脚泡」と刻んだと伝えられています。

大谷吉継首塚(下多良) ➡右
関ケ原で敗北を悟って自刃した吉継の首を、甥の僧祐玄が、領国敦賀への逃亡の途中でここに埋めたといわれています。半間四方の祠堂に祀られています。

赤尾駿河守墓(長岡)⬆
「赤尾駿河守藤原教政　大永元辛巳稔九月十二日於箕浦河原討死」と刻まれています。

遠藤喜右衛門直経墓 ⬆(須川)
側面に「元亀庚午年六月二十八日　姉川戦死遠藤喜右衛門直経」と刻んでいます。(成菩提院に移転)

西円寺今井一族の墓(西円寺)⬆

内藤正道碑(長沢)⬆
長沢を領地とした旗本内藤正道の顕彰碑で、福田寺住職摂専が碑文を作りました。

荻野庄左衛門墓(三吉)⬆
享和３年(1803)、中山道通過の際に客死した家臣の菩提を弔うために、九鬼家が建立しました。

総寧寺新庄家墓所(寺倉)⬆
新庄駿河守正頼は朝妻城主直頼の子で、江戸時代常陸国麻生藩（茨城県）三万石を領しました。総寧寺は正頼の菩提寺で、幕末の藩主直陳も葬られています。

山内一豊の母 法秀院墓(宇賀野)⬆

コラム：東山道一の難所　― 鎌倉幕府滅亡 ―

元弘３年(1333)、鎌倉幕府倒幕に踏み切った足利尊氏が京都に攻め入ります。京都の六波羅探題の北条仲時は、鎌倉に逃れるために近江の東山道（中山道）を北上します。磨針峠から先は山間部を通過することになり、番場で待ち受けていたのは、先帝亀山上皇の第五皇子を担ぎ出して錦の御旗を揚げた北近江の武士団や伊吹山の僧兵、山賊たちです。仲時一行432人は、逃げおおせないことを悟り、蓮華寺にて自刃しました。『太平記』では「東山道第一の難所といふ番馬宿」と記されています。

蓮華寺北条仲時従士の墓(番場)

蓮華寺を望む六波羅山の北条仲時墓(番場)⬆
水輪のみ石灰岩製ですが、全体のバランスは整っています。享保年間に井伊直興によって六波羅山の山頂のやや東下に移されました。

番場宿全景(中央やや右に六波羅山、右端が地頭山城)

蓮華寺土肥元頼の墓⬇(番場／市指定)
元頼は一向上人に帰依して蓮華寺を再興し、正応元年(1288)、蓮華寺に葬られました。

地頭山山中の土肥氏墓

蓮華寺勅使門

8. 板　碑

藤原定家墓（藤川）⬆
藤川に隠棲した定家の追慕のために後世に建立された五輪塔板碑です。

白山神社石造物群（曲谷）

白山神社板碑（曲谷／市指定）⬆
鎌倉末から南北朝時代と推定される２本の板碑で、阿弥陀如来を半肉彫りし、観音・勢至の二菩薩を梵字で表しています。近江では貴重な資料です。境内には宝篋印塔の基礎石や石祠（せきし）、五輪塔などが多くあり、石造物製造地の集落としての景観をみることができます。

9. 石　幢

青岸寺庭園石幢（米原）➡
石幢と織部灯籠の竿を合わせた「寄せ灯籠」として名勝庭園に配置されています。常福寺では竿を失い仮堂に祀られています。

石幢（志賀谷／市指定）⬅
志賀谷集落の中央番場にあり、６面に地蔵立像を彫ります。２面は合掌像で他は捧珠持錫像です。貞享３年（1686）、願主阿原氏の銘があります。

常福寺石幢龕部（がんぶ）（梓河内）

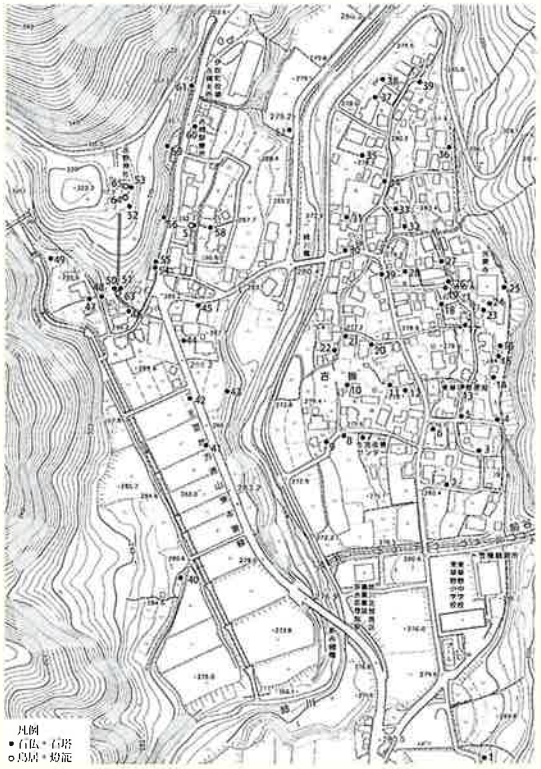
10. 石　仏

地蔵菩薩半跏像（醒井／市指定）

国見古道の石仏（上板並）

猫居坂峠の地蔵（清滝）

線刻仏（藤川）↑　砂岩に線刻された地蔵菩薩で伊吹山麓でみられます。



吉槻石仏分布図

コラム：石仏の里・吉槻

吉槻は交通の要地で、峠道には安全祈願のための石仏が置かれました。集落内にも石造物が多く、屋敷内や道沿いに祀られ、往時の賑わいがしのばれます。

11. 灯籠

石造文化財のなかで、灯籠はもっとも目につくものです。神社や寺院や村の中にあり、多くは奉納年月や願主、ときには石工名が刻まれていて、奉納時の村の社会的な背景を知ることができます。中世の灯籠は凝った細工を各部に施しますが、江戸中期から後期には、壇上積みの方形になり、竿が下に広がるバチ形になります。

秋葉神社供養灯籠(伊吹)⬆
明治34年に姉川の赤石を集めて「札場(ふたば)」に建てられました。

十王水灯籠(醒井)⬆
背面には「浄蔵結縁水(じょうぞうけちえん)」と刻まれていて、平安中期の高僧が岩を刻んで水が湧き、霊仙の神仏と結縁した故事にちなみます。

秋葉大権現常夜灯(春照)⬆
明治25年、宿場の南端に建てられました。

秋葉大権現常夜灯(志賀谷)

大神宮参宮灯籠(杉沢)⬅
明治28年、伊勢神宮への信仰として伊勢講により建てられました。

大神宮参宮灯籠(梓河内)➡
天保２年(1831)建立。観音寺常夜灯と類似する青石で造られ、曲谷石工の関りを想定させる優品です。

まいばら・石塔のある風景

卵塔や五輪板碑などさまざまな墓標が並ぶ松尾寺（上丹生）

長命地蔵（小泉）

みごもり地蔵（堂谷）

五輪塔が中心の地蔵堂（上野）

醒井の地蔵盆

【石造物に関する問合せ】
米原市教育委員会、資料館・歴史館まで

■米原市伊吹山文化資料館
所在地／米原市春照77番地
開館時間／9:00～17:00
休館日／月曜日・祝日の翌日
入館料／大人200円　小人100円

■米原市柏原宿歴史館
TEL／0749-57-8020

中世墓がある墓地の前の伊吹山文化資料館

集団移転前の旧太平寺集落（昭和30年後半）

松尾寺葷酒碑古写真（上野区提供）↑
「不許葷酒入山門（くんしゅさんもんにはいるをゆるさず）」。戒律を守るために禅宗寺院の山門脇に建てられます。※現在は伊吹山三合目にあります。

坂田神明宮太鼓橋（宇賀野）↑

勝居神社太鼓橋（杉沢）↑

日撫神社下馬石（顔戸）↑

筑摩神社下乗石（朝妻筑摩）↑

ここからは馬や駕籠（かご）から降りて歩かなくてはならないという結界です。日撫神社の下馬石は平安時代中期の書家小野道風（おのの とうふう）の書と伝えられています。

日撫神社一の鳥居（顔戸）↑
「夫馬鳶（ぶまとび）」として全国に名をはせた林武右衛
れました。

の石造物

門が棟梁として、寛政７年(1795)建立さ

勝居神社狛犬(杉沢)←
江戸時代の作風をみせる小型の狛犬で、越前の笏谷石(しゃくだにいし)で台座とともに造られています。

手水石(吉槻)➡
吉槻の神木カツラの根元に置かれています。曲谷産と考えられます。

三之宮神社石垣(上野)⬆
伊吹山の石灰岩を積んだ石垣に「享保三年(1718)六月一日立之」と刻まれています。

吉野神社石段(吉槻)⬆
吉槻の花崗岩は硬く、加工に向かないことから建材として利用されました。

泉明院読誦経塔(柏原)⬆
法華経の読誦三昧(どくしょうざんまい)の仏道修行に徹した記念のために建てられました。信仰に生き抜いた僧がいた証です。

深宥(じんゆう)の墓↑
文和年間(1350頃)、長尾寺の復興に尽くした僧を追慕して、後世に五輪塔が建立されました。

長尾寺の石造物

伊吹山四護国寺のひとつ長尾寺跡(大久保)は市の史跡になっており、遺跡内には石造文化財が多くみられます。

岩風呂(手水石)↑
曲谷から長尾寺に納めるために運ばれてきました。山寺での禊(みそぎ)のための岩風呂ともいわれています。

天文7年銘の五輪塔↑

伊夫岐(いぶき)神社の石造物

伊夫岐神社は四ヶ寺が共同で社務をおこなった伊吹山の神を祀る里宮です。

宝塔↑

秋葉神社弥勒石仏↑
姉川の対岸にあり、山頂の弥勒堂から降ろされたと伝えられています。鎌倉時代にさかのぼると思われる古仏です。

長足五輪塔↑
有力者の墓碑か共同の供養塔と考えられ、五輪塔としては県下随一の高さとされます。

信仰の石造物

弥高寺の石造物

入定窟（弥高寺跡）➡
死期を迎えた高僧が経文を唱えながら息絶えたとされる石室です。中には、江戸時代の陶製の役行者（えんのぎょうじゃ）像が祀られています。

宝篋印塔・五輪塔（弥高寺跡）⬆
入定窟の前にあったものを戦時中に近江高天原（たかまがはらせつ）説のあおりで移動されました。やや寸詰りで一部を欠きますが、北近江最大級のものです。

宝篋印塔（平野神社／市指定）⬆

實佑の墓（平野神社）⬆

宝篋印塔は、もと弥高寺（やたかじ）跡にあったと伝えられています。完形の優品です。僧實佑の墓は境内の巨樹の根元にありましたが、平成27年移されました。大永８年（1528）の銘があります。

太平寺の石造物

蔵の内の不動尊⬆（不動の滝）

大平観音堂層塔（春照）⬆

大平観音堂一石五輪塔⬆（春照）

円蔵坊跡（太平寺跡）⬆

山腹の太平寺跡から移された大平観音堂境内の石仏・石塔群の中には、現存で三重の層塔があり貴重な石造物です。旧太平寺の円蔵坊跡にも石仏や石塔が集められています。

伊吹山頂

弥勒堂↑

伊吹山の石造物

山頂一帯は「蓮上（れんじょう）」とよばれました。山岳修行の最終目的地を指し、弥勒堂が中央に鎮座する広大な山頂は、神仏がおられる蓮華坐を思わせます。古い絵葉書からかつて多くの石仏や石塔があったことがわかります。

戦前の絵葉書の弥勒堂↑
（上野区提供）

日本武尊像（伊吹山頂）↑
明治45年に南弥勒堂とともに尾張国御嶽（おんたけ）照王教会（しょうおうきょう）員によって建てられました。

伊吹山の修行僧・播隆

笠ヶ岳再興や槍ヶ岳開山で知られる念仏行者で、文政６～９年（1823～26）、伊吹山を拠点に修行をおこない、各地を回り念仏を広めました。その足跡は美濃や尾張・信濃にのこり、県内は伊吹山麓に集中しています。

日本武尊遭難の地の石祠（三合目）↑
大正９年に柏原亀屋左京の寄進により建立され、泉亮之作の日本武尊木像が祀られました。

播隆六字名号碑（志賀谷）↑
「南無阿弥陀仏」と独特の字体で刻まれた名号碑が志賀谷の秋葉神社と墓地にあります。

播隆六字名号碑（志賀谷）↑

14. 記念碑・磨崖仏など

西南戦争出征陸軍伍長岩嶋鶴次郎碑(池下)⬆
「明治十年三月十五日熊本縣下肥後國山本郡横平山奮闘激戦之際右腹肝臓部射入銃創ヲ受ケ即日死没シ能ク臣民ノ分ヲ盡セリ行年二十有四」

千福神社日露戦争記念碑(高番)⬆
乃木希典の「明治卅七八年戦役記念碑」書。背面には出征兵士の名を刻んでいます。

大梵字石(柏原)⬆
幕末頃に柏原の人が施主となって刻ませました。

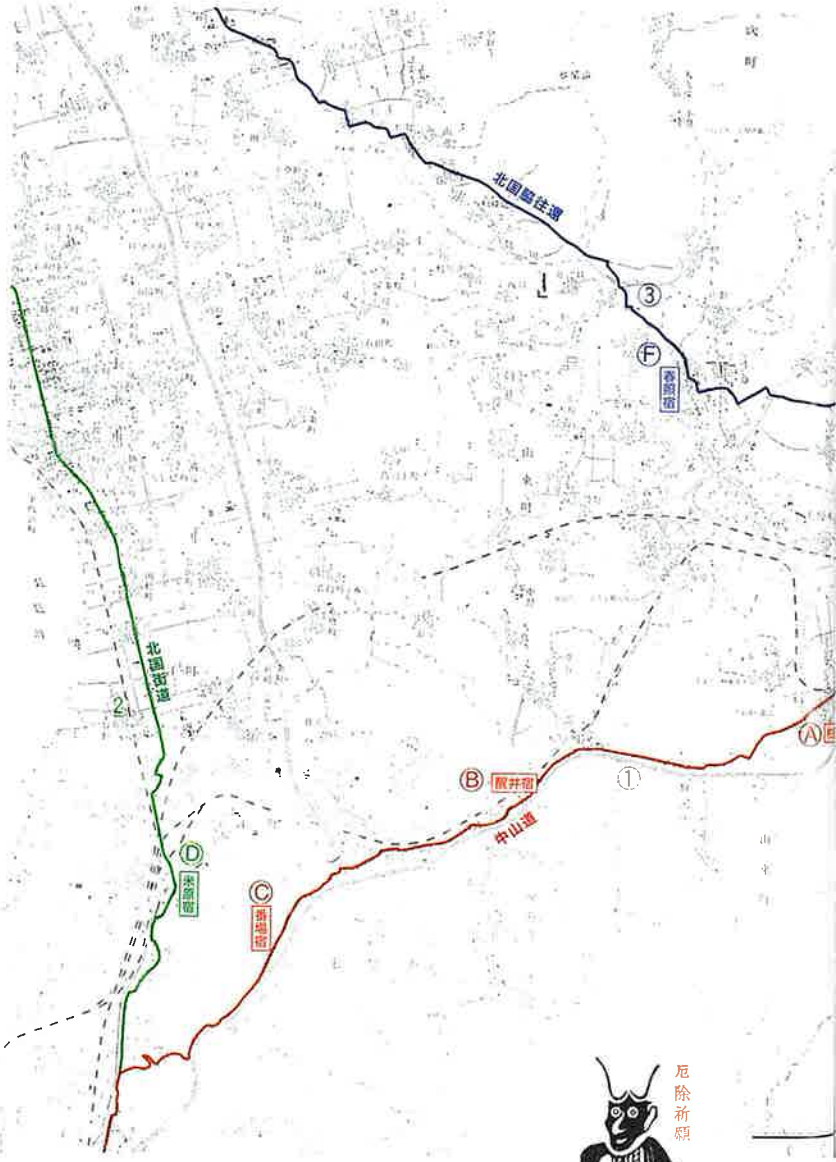
梵字石(堂谷)⬆
弘法大師が大蛇から里人を救うために彫ったといわれています。下の道が河川工事で約1m程高くなっています。

長老墓地川の石橋(能登瀬)⬆
江戸中頃に能登瀬で生まれた慈芳が、氾濫して橋が流され里人が難渋するのに忍びず、石柱を立てて橋脚としました。

15. 街道の石造物

米原市は、東国・西国・北陸の分岐点であり、近江における東の玄関口として古くから交通の要衝でした。交流は原始・古代から始まり、中世には多くの武将が行き交い、近世には中山道・北国街道・北国脇往還など主要な街道が整備され、６つの宿場がおかれました。また、古代朝妻湊（あさづまみなと）や近世の米原湊は、東国の物資を京や大阪に運ぶ重要な港でした。さらに、伊吹や霊仙の山中には縦横に峠道が通っていました。

「千石道」道標（大鹿）⬆
山東地域の産米を朝妻湊に運んだ道で、彦根藩領の総石高が約千石だったことからこの名があります。



峠の地蔵（上板並）⬆

来照寺庭園の元三大師道標（高溝）⬆

角大師の護符

元三大師道標（顔戸）⬅
比叡山中興の祖であり、「角（つの）大師」として民衆の信仰を集めた大師生誕地・玉泉寺（長浜市三川町）への道標です。
左　長濱みち　右　元三大師

北国脇往還道標(春照)⬆
左　ながはま道
右　北国　きのもと
　　えちぜん　道

北国脇往還道標(小田)⬆
右　江戸道　左　山中道
「山中道」は伊吹山中や東草野の峠道を指します。

北国街道道標(米原)⬆
左　北陸道　ながは満　きのもと
右　中山道　はんバ　さめがゐ
引化三丙　年再建

小磨針峠手水石(番場)⬆
中山道番場宿と鳥居本宿の間の水場にあります。

江戸時代後期の丁石(下丹生)

室町時代後期の丁石(西坂)

松尾寺参詣道丁石(上丹生・下丹生・西坂／市指定)⬆
一町(約108m)ごとに建てられた道しるべで、梵字や施主の名が入っています。全部で32基あります。

汽車汽船道標(番場)

昭和前期の丁石(下丹生)

Ⅳ 石を刻む

1. 曲谷石切り場跡

五色の滝（ベンニヤガラ谷）

起し又川のヤ穴跡

ヤ穴が開けられた石

イワイ谷のヤ穴石

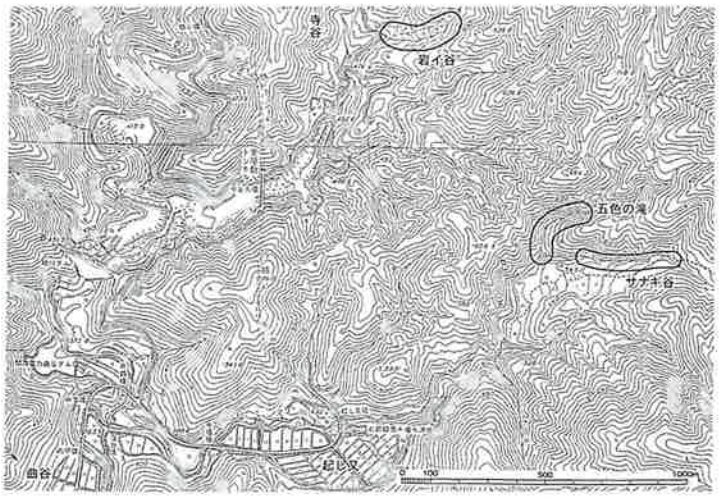
作業小屋「イシヤ」跡

サナギ谷のヤ穴石

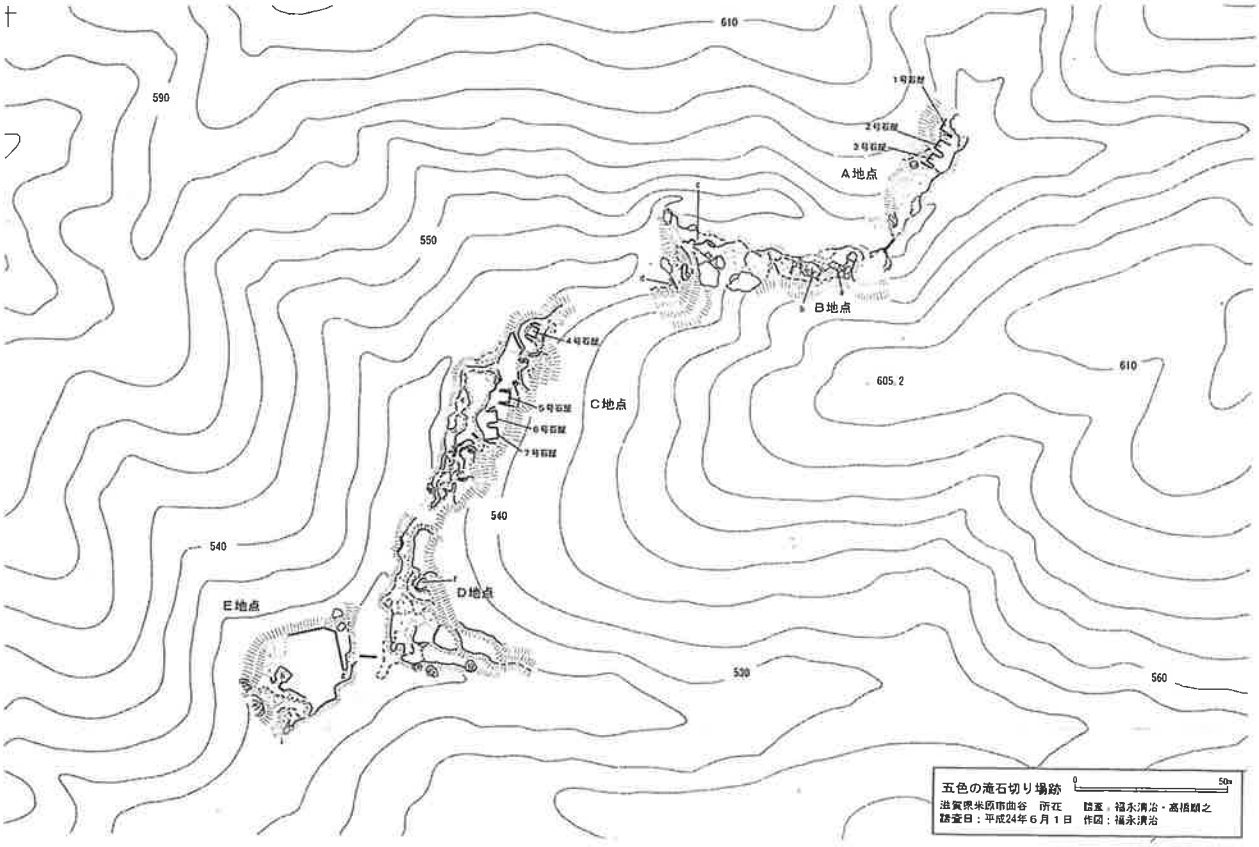
イシヤと石臼失敗品

米原市曲谷は石臼（粉挽き臼）作りの里として知られています。集落の北で姉川に合流する起し又川の上流に、「イシヤ」とよばれる石臼の作業所跡が残されています。石を割るために彫られた矢穴を持つ石材が随所に露出しています。採掘の対象となった石材は花崗岩で、その質は「粘っこ」く、粉を引いても石材がくずれず石臼に適していたそうです。

まいばらの「マチュピチュ」
曲谷石切り場



曲谷石切り場分布図



五色の滝周辺石切り場遺構図

中間に石切り場をはさみ、南北２個所にイシヤ群があります。平坦面の構成や通路は自然地形に沿った構造です。２号・３号イシヤや、５号～７号イシヤに見られるように、開口部の前面通路を活用して相互の連絡・共用が重視されているようです。Ｅ地点では川の合流地点に広い空間を確保しており、双方の谷へと分かれる作業単位ないし集団を集約する機能を想定できます。

2. 石工の村・曲谷

石材加工の始まりは、白山神社板碑などから鎌倉時代末頃と想定され、散在する石造物から、石工の村のなごりをみることができます。石臼作りは江戸時代中頃からで、明治期にはすべての家が石屋で、石切り場から石臼素材を四・五個かついで持ち帰り、農業のかたわら石臼を作っていました。曲谷臼は北近江や西美濃に広く及んでいます。

石臼造りを伝えた西仏房

ヤ穴石と宝篋印塔とイケ

流し台の石臼失敗品

七塚伝説の石祠

ヤ穴が開けられた石

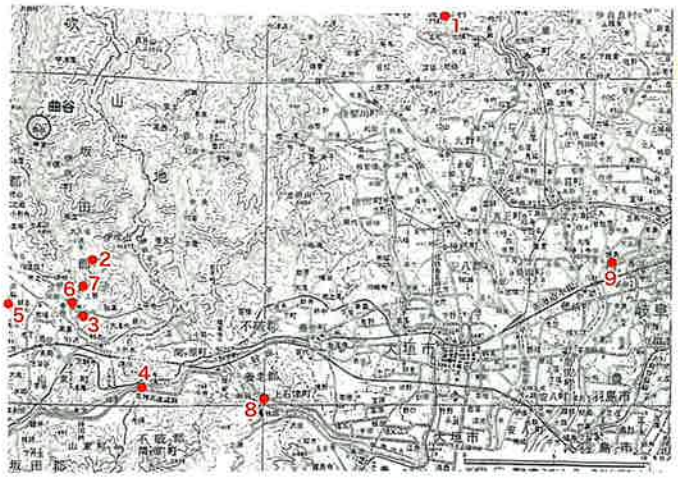
大政所の石祠

石臼の階段

曲谷集落全景

3. 曲谷石工の活躍

花崗岩以外の石材も使った作品が、伊吹山麓の主要な石造物や西美濃地方でみられます。現在確認されている最古のものは、谷汲山華厳寺(岐阜県揖斐川町)の本堂階段脇の笠塔婆で延享２年(1745)のものです。



作品分布図(1~9は写真に対応する)

作品から木曽姓の義致―致永…義周―義金という石工の系統が読み取れます。曲谷に石材加工を伝えた西仏房が木曽義仲の家臣であったことにちなむと考えられます。

6. 八幡神社灯籠(春照)

5. 観音寺灯籠と銘文(朝日)

3. 秋葉神社石祠(春照)

7. 伊吹山登山口灯籠(上野)

8. 九里半街道常夜灯
(大垣市上石津町)

1. 華厳寺笠塔婆(岐阜県揖斐川町)

2. 太平神社灯籠(太平寺)

9. 乙津寺石仏(岐阜市)

4. 妙応寺手水と銘文
(岐阜県関ケ原町)

V 資　料

1. 掲載石造物一覧

【宝篋印塔】
1 宝篋印塔　弥高　弥高寺跡（22）
2 宝篋印塔　弥高　平野神社（22）
3 高屋貞満墓　春照　善楽寺（10）
4 長寿塔　柏原　恵比須神社（4）
5 宝篋印塔　柏原　小野墓地（4）
6 宝篋印塔　柏原　勝専寺（9）
7 京極家墓所　清滝　徳源院（7）
8 北畠具行墓　清滝　猫居坂（9）
9 京極満信墓　長岡　東福寺跡（9）
10 宝篋印塔　長岡　西福寺（9）
11 宝篋印塔　天満　観音堂（4）
12 宝篋印塔　志賀谷　薬師堂（9）
13 大原時綱墓　加勢野　光明院（10）
14 雅成親王墓　宇賀野　蓮成寺（12）
15 法秀院墓　宇賀野　集落内（13）
16 後鳥羽上皇供養塔　長沢　福田寺（12）
17 宝篋印塔　世継　浄念寺（4）
18 泡子塚　醒井　西行水（13）
19 荻野庄左衛門墓　南三吉　惣墓（13）
20 土肥元頼の墓　番場　蓮華寺（14）
21 宝篋印塔　上多良　薬師堂前（4）
22 星川塔　朝妻筑摩　朝妻神社（5）
23 宝篋印塔　磯　磯﨑神社後宮（4）

【五輪塔】
24 五輪塔　大久保　長尾寺跡（5）
25 深宥の墓　大久保　長尾寺跡（21）
26 長足五輪塔　伊吹　伊夫岐神社（21）
27 一石五輪塔　春照　大平観音堂（22）
28 實佑の墓　弥高　平野神社（22）
29 一石五輪塔　杉沢　玉泉院（5）
30 京極氏一族墓　上平寺　伊吹神社（9）
31 済之君墓　長岡　集落内（9）
32 五輪塔　小田　妙覚寺（5）
33 大原氏墓　本市場　大原氏館跡（10）
34 新庄家墓所　寺倉　総寧寺（13）
35 今井一族の墓　西円寺　西円寺（13）
36 北条仲時墓　番場　六波羅山（14）
37 北条仲時従士の墓　番場　蓮華寺（14）
38 一ノ宮皇子御墓　中多良　願乗寺（12）
39 大谷吉継首塚　下多良　祠堂（13）

【層塔】
40 層塔　春照　大平観音堂（22）
41 層塔　柏原　泉明院（11）
42 層塔　長岡　西福寺（11）
43 九重塔　上丹生　松尾寺（11）
44 九重塔　三吉　八坂神社（11）
45 層塔　朝妻筑摩　朝妻神社（5）

【多宝塔】
46多宝塔　柏原　永明寺（11）

【宝塔】
47 宝塔　伊吹　伊夫岐神社（21）
48 比夜叉御前墓　池下　三島池（10）

【笠塔婆】
49 遠藤喜右衛門直経墓　須川（13）※現在は成菩提院

【墓石】
50 赤尾駿河守墓　長岡　原毛山麓（13）

【板碑】
51 藤原定家墓　藤川　個人墓内（15）※五輪板碑
52 板碑　曲谷　白山神社（15）

【石幢】
53 石幢　志賀谷　集落内（15）
54 石幢　梓河内　常福寺（15）
55 石幢　米原　青岸寺庭園（15）

【石仏】
56 西仏房石像　曲谷　円楽寺（29）
57 国見古道の石仏　上板並　峠道脇（16）
58 弥勒石仏　伊吹　秋葉神社（21）
59 蔵の内の不動尊　太平寺　不動の滝（22）
60 日本武尊石像　上野　伊吹山頂（23）
61 線刻仏　藤川　惣墓（16）
62 峠の地蔵　清滝　猫居坂（16）
63 地蔵菩薩半跏像　醒井　地蔵堂（16）

【石祠・廟】
64 大政所の石祠　曲谷　白山神社（29）
65 七塚伝説石祠　曲谷　石臼公園（29）
66 弥勒堂　上野　伊吹山頂（23）
67 日本武尊遭難の地の祠　上野　三合目（23）
68 入定窟　弥高　弥高寺跡（22）
69 石祠　春照　秋葉神社（30）
70 京極高次廟　清滝　徳源院（8）

【灯籠】
71 秋葉神社供養灯籠　伊吹　集落内（17）
72 灯籠　太平寺　太平神社（30）
73 金毘羅大権現灯籠　上野　伊吹山登山口（30）
74 秋葉大権現常夜灯　春照　街道筋（17）
75 灯籠　春照　八幡神社（30）
76 大神宮参宮灯籠　杉沢　勝居神社参道（17）
77 大神宮参宮灯籠　梓河内　集落内（17）
78 常夜灯　朝日　観音寺（30）
79 秋葉大権現常夜灯　志賀谷　秋葉神社（17）
80 十王水灯籠　醒井　地蔵川（17）

【鳥居・狛犬・手水石】
81 手水石　吉槻　カツラの木（20）
82 岩風呂（手水石）　大久保　長尾寺跡（21）
83 狛犬　杉沢　勝居神社（19）
84 一の鳥居　顔戸　日撫神社（19）
85 手水石　番場　小磨針峠（26）

【石垣・石段・橋】
86 石臼の階段　曲谷　個人宅（26）
87 石段　吉槻　吉野神社（20）
88 石垣　上野　三之宮神社（20）
89 太鼓橋　杉沢　勝居神社（19）
90 石橋　能登瀬　長老墓地川（24）
91 太鼓橋　宇賀野　坂田神明宮（19）

【磨崖仏】
92 大梵字石　柏原　岩ケ谷（24）
93 梵字石　堂谷　坪江薬師堂（24）

【石碑・道標】
94 葷酒碑　上野　松尾寺（19）
95 道標　春照　北国脇往還（26）
96 日露戦争記念碑　高番　千福神社（24）
97 読誦経塔　柏原　泉明院（20）
98 道標　小田　北国脇往還（26）
99 西南戦争出征碑　池下　三島池（24）
100 播隆六字名号碑　志賀谷　秋葉神社（23）
101 道標　大鹿　千石道（25）
102 下馬石　顔戸　日撫神社（19）
103 道標　高溝　来照寺庭園（25）
104 道標　顔戸　元三大師道（25）
105 内藤正道碑　長沢　旧関所跡（13）
106 丁石　下丹生　松尾寺参詣道（26）
107 道標　番場　中山道（26）
108 道標　米原　北国街道（26）
109 下乗石　朝妻筑摩　筑摩神社（19）

〔註〕
・（　）は掲載ページを示します。
・法量等につきましては、割愛しました。
・寺院や個人宅の資料については、あらかじめ連絡を取って訪問してください。なお、見学できないものもあります。

2. 石造物をめぐる物語

首塚(No.39)

下多良の墓の前と呼ぶ小字の畑の中に小さな地蔵堂があります。お詣りしますと中にお堂の高さ一ぱいの一石五輪塔がよだれかけを何枚もして、おまつりしてあります。

一石で一メートル以上の五輪塔は外ではあまり見うけません。露天でもかまわぬ墓が、お堂の中におまつりしてあるのにはいろいろとわけがありました。

関ヶ原合戦で西軍の参謀であった大谷吉継が、小早川秀秋、脇坂安治、藤堂高虎(若い頃磯山城主)、京極高知等のために三面攻撃を受け、遂に身の危険を感じて、近臣湯浅五助に速やかに吾が首を隠すよう遺命して自害しました。湯浅五助は、三浦喜大夫に命じて首を山深く隠しましたが、高虎の甥、藤堂仁右衛門に発見され、止むなく武士の情義に訴えて、これを秘密にしてくれるよう約して、自分の首を渡したと伝えられていますが、吉継の甥の祐玄僧が吉継の最後を見とどけて遁れたといいますから、この人はひょっとしたら形見として何れかに逃れて菩提を弔いたるやも計り知れません。

ここの伝説では、関ヶ原の合戦で傷ついた士が力つき動けなくなったので、大事にかかえ持っていた大将の首級を、ここに埋めて自分も自害して果てました。これには深いわけがあるものと、土地の人も口をかたく滅じて、地蔵さんをまつりねんごろに供養をしたということです。

それからしばらく経って、ここを尋ねた人が立派な一石五輪塔を寄進して、後事をくれぐれもたのみ立去りました。

吉継の家族は、安芸、信濃、あるいは尾州、又は四国に点々とちらばっているので、吉継の首塚と五輪塔にも深いわけがありそうです。

昭和になってからも大谷吉継の後裔だという人が何度か尋ねて供養をしてゆかれました。義にたおれた敗軍の将、語らず、しかし一石五輪塔にみゃくみゃくと通うものを感じ自然と頭が下がります。(『米原町むかし話』)

比夜叉御前(No.48)

三島池は大池ともよばれ、伊豆の三島の海を模して造られたといわれています。

昔どうしたことか、この池に水が溜まらないので、これを占ってみると、「一女を生埋めにして水神にささげたなら満水になる。」ということでした。

そこで、佐々木秀義の乳母で比夜叉御前という人が生きながらに池底に入り、機織機と共に人柱となったところ、たちまち水が溢れ出て、そののちはどんなひでりにも水がかれることがなくなったといいます。そこで比夜叉御前を水神として崇めています。

今でも夜なかになると水底で機織りの音が聞こえることがあるといわれています。

「名にも似ず　心やさしき　手弱女の　誓いも深し　満つる池水」(『山東昔ばなし』)

弘法さんの筆投げ岩(No.93)

本郷の西、臥龍山の麓にある自然の巨岩に、大きな梵字が三字彫ってあります。伝説によるとこのあたりは川が大へん深くおそろしい大蛇が住みつき、里人はこの大蛇の被害にあって、命を落とすもの数多く、たいへんおそれられていました。

たまたま弘法大師が諸国巡錫の途中この話を聞かれ、この大蛇の難を救わんとこころざし、こちらの岸から対岸の巨石に大筆を投げて梵字を書き、蛇災を封じられたということです。梵字は弥陀、観音、勢至の三仏をあらわされたものでいわゆる磨崖仏の一種です。現在この巨石の前を黒田川が流れていますが、上古は姉川がとうとうと流れていたものと思われます。

尚付近に坪江薬師堂があります。この薬師像も、弘法大師が大蛇の難から里人を救うために、大師自ら彫刻されたものと言い伝えられています。(『山東昔ばなし』)

石工を教えた才仏坊(No.56)

親鸞聖人のお弟子に才仏坊覚明という人がありました。なんでも木曽の山中から落ち延びて来て、この地に住まれたのだそうです。才仏坊は曲谷の石材をほめ、石工の業をこの村の人々に教えられたといわれています。また何人かの石工を木曽からまねかれたとも伝えられています。木曽という姓はその時曲谷に来た人々だともいわれます。

円楽寺のお内陣にはお厨子の中におまつりされている石像があり、これが才仏坊だといわれています。円楽寺の住僧慶山上人の著した「看山軒巡り」には

曲りぬる谷の奥にし巡り来て散らん花見ん木曽の覚明

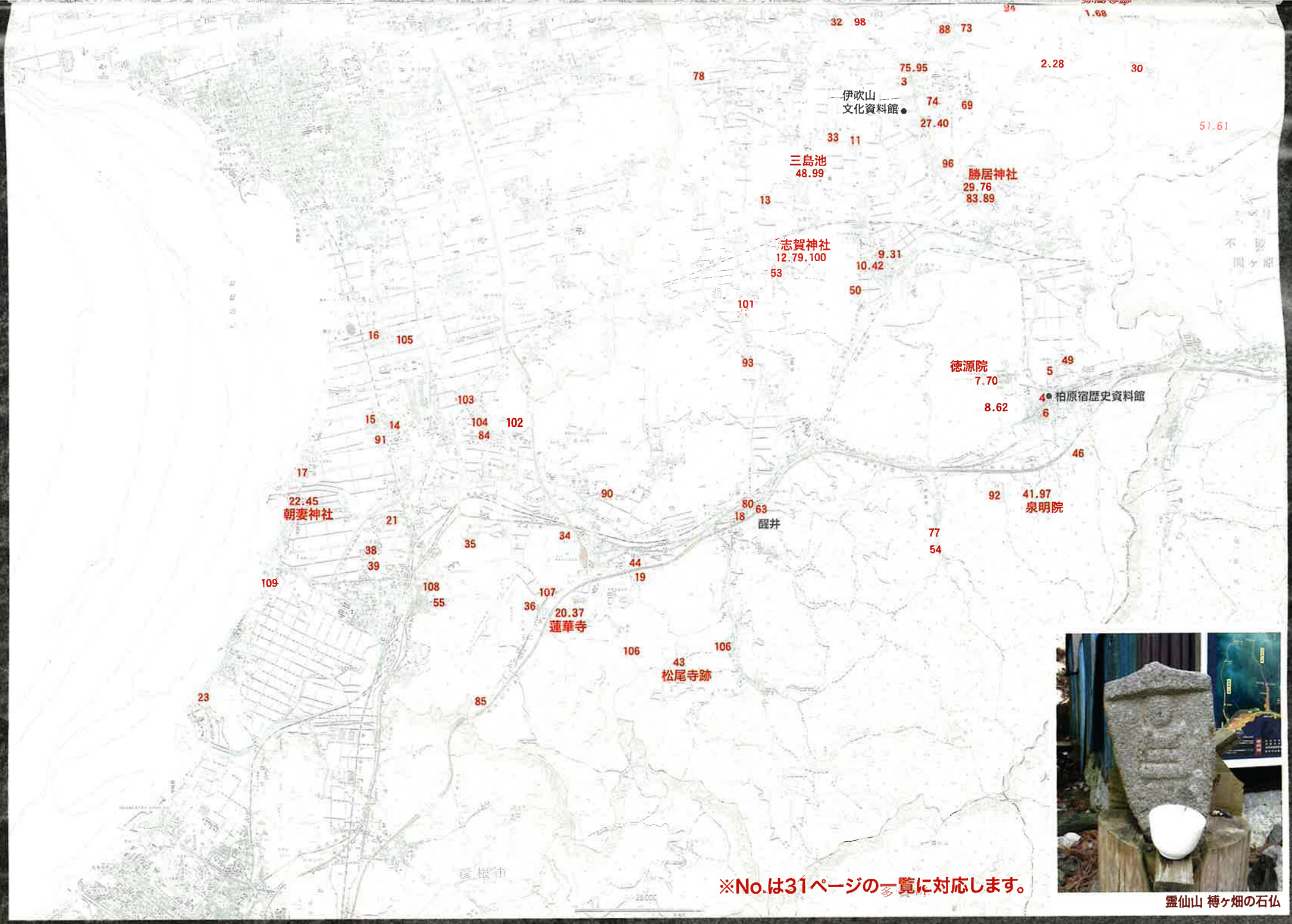
とあって、村人のいい伝えをうらづけています。(『いろりばた　伊吹町昔ばなし』)

【参考文献】

坂田郡教育会編『改訂近江國坂田郡志　第三巻上』1941
瀬川欣一『近江　石の文化財』2001　サンライズ出版
石造文化財調査研究会編『石造文化財への招待』2011　ニューサイエンス社
滋賀県立長浜文化芸術会館『年報』1988
伊吹町『伊吹町史　文化民俗編』1994
山東町『山東町歴史写真集』1992
山東町教育委員会『ふるさと山東の文化財』1987
米原町教育委員会『米原町の文化財』2001

3. 石造物分布図

滋賀県位置図
木之本町
月町
曲谷
52.56
64.65
86
石切場跡
81.87
57
長尾寺跡
24.25.82
米原市
伊吹山頂
60.66
59
72
67
伊夫岐神社
58
26.47
71
長浜市
虎姫町
岐阜
揖斐川町
米原市


伊吹山
文化資料館
三島池
48.99
勝居神社
29.76
83.89
志賀神社
12.79.100
徳源院
7.70
柏原宿歴史資料館
8.62
泉明院
41.97
醒井
朝妻神社
22.45
蓮華寺
20.37
松尾寺跡
43
※No.は31ページの一覧に対応します。

霊仙山 榑ヶ畑の石仏

【協力者・協力機関（敬称略）】
米原市上野自治会・磯自治会・下多良自治会・粕渕宏昭・寿福 滋・谷口 徹
日比野勇・山下 立・安土城考古博物館・滋賀県文化財保護協会

石塔造立 ―まいばら石造物100― 2016.3

米原市教育委員会 〒521-0242 滋賀県米原市長岡1206 TEL.0749-55-4552 FAX.0749-55-4040